

9 特別支援教育

具体的な内容		自己評価A	関係者評価	関係者評価委員(学校評議員)のコメント	
一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び支援を行っている。	前期	良好	良好	一人一人の実態に応じて、個別指導だけでなく1組との交流授業を効果的に行うことで、コミュニケーション能力が高まったり、子ども同士の関係性がよくなったりしている。今後も個性に応じた、よりよい指導に努めてほしい。また、他校との交流活動なども含め、様々な体験を通して、一人一人が更に成長できるように配慮してほしい。	
	年度	良好			
評価指標	実践課題		主な取組	自己評価B	
(17)校内支援体制の整備	②特別支援教育委員会の充実と組織的な協力体制		<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画の作成・校時表、時間割の工夫・生活支援員 全校支援体制・特別支援コーディネーター・関係機関との連携 	4	4
(18)交流学习・体験学習の充実	②個々の特性を生かした交流学习、共同学習、体験学習の推進		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な体験学習・交流学級での授業・自立活動と進路指導 関係機関、他校との連携 	4	4

学校の改善策

【前期(→年度)】

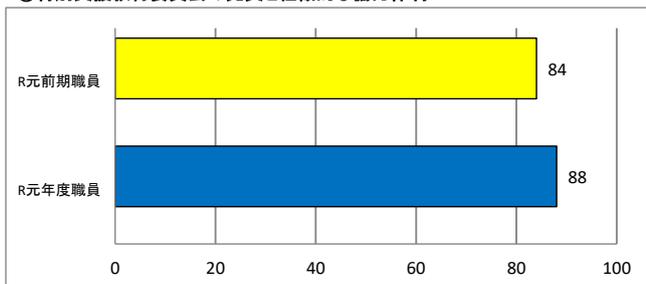
- ・学期1回の校内特別支援委員会や、児童の実態や諸問題に応じた臨時会議の充実を図り、児童の支援に生かしていきたい。
- ・交流学級での活動や特別支援学級間での交流を通して、児童の成長を支援するとともに、児童の特性に応じた適切な指導・支援を進めていきたい。

【年度(→次年度)】

- ・交流学級での活動や他校との交流を通して、様々な役割や体験を積み重ね、児童が自己有用感を味わっている様子がうかがえた。そうした積み重ねにより、大きな成長が期待できる。交流学級との活動の在り方や校内の特別支援学級同士の合同学習の在り方についても検討を重ね、児童の興味・感心を高めながら、よりよい成長に結び付くような内容にしておく。
- ・サテライト教室(県立視覚支援学校)、比内支援学校かつの校との相互交流やなかよし交流会参加などの機会を活用し、関係機関とより一層の連携を図りながら、児童の成長に向けた支援を進めていく。
- ・校内特別支援委員会等で、今年度の成果と課題について全職員での共通理解を深めるとともに、特別支援教育に関する研鑽を積む。
- ・閉校・統合を見据えて、書類の引き継ぎ等を確実にやっていく。

<(17)に関するデータ>

②特別支援教育委員会の充実と組織的な協力体制



- * 特別支援委員会・・・ 5月:個別の指導計画・支援計画を基に、全職員で共通理解
9月:第1回以降の児童の変容、作成・提出書類についての共通理解
2月:個別の指導計画・支援計画の評価、次年度に向けて全職員で共通理解

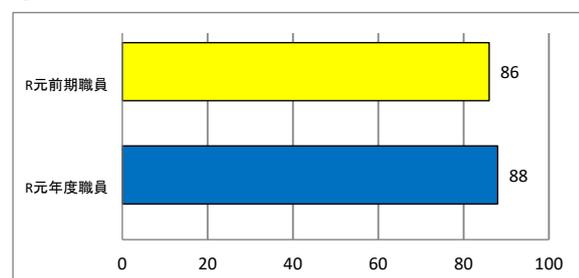
* 連絡調整・・・

- ・個別の指導計画・支援計画の作成及び評価
- ・特別支援セミナー指導案検討
- ・就学に関する提出書類作成
- ・資料ファイルの保存等の相談

職員の評価が前期よりも年度、昨年度よりも今年度が上がっている(昨年度は年度が85)。交流学习や特別支援学級による合同授業が意図的、効果的になされたことを示している。また、特別支援教育セミナーの開催も全職員の特別支援教育に関する理解促進に結び付いた。今後も、特別支援学級担任と通常学級担任との共通理解、担任と支援員との打ち合わせ時間の確保等を大事にしていきたい。

<(18)に関するデータ>

②個々の特性を生かした交流学习、共同学習、体験学習の充実



* 交流学习・・・通常学級との交流(主に技能教科で)

- * かつの校との交流・・・
 - ・本校にて紙漉き体験
 - ・かつの校にてクリスマスパーティー
- * なかよし交流会・・・
 - ・鹿角交流センターにて、他校の特別支援学級の児童生徒と交流(名刺交換・ニュースポーツ等)



1・2年生の生活科での交流

後期は、比内支援学校かつの校との2回の交流、なかよし交流会など、他校との交流・体験学習があり、様々な体験を通して一人一人の児童の成長は感じられた。また、校内に3学級ある特別支援学級相互の交流も進められた。なお、今年度は、交流学习への取組の様子について、鹿角地区を代表して「東北特別支援教育研究大会福島大会」で本校職員が発表する機会があり、称賛をいただいた。

自己評価A及び外部評価の評価区分
○ きわめて良好
○ 良好
○ おおむね良好
○ やや不十分
○ 努力を要する

自己評価Bの評価基準	
5	実現状況は極めてよく意識も高い/数値目標に対して91%以上達成・前年度比108%以上
4	実現状況は良好で意欲もある/数値目標に対して80~90%達成・前年度比103~107%
3	実現状況はおおむね良好/数値目標に対して60~79%達成・前年度比98~102%
2	実現状況はやや不十分で取組が不安定/数値目標に対して50~59%達成・前年度比93~97%
1	実現状況は不十分で努力を要する/数値目標に対して49%以下の達成・前年度比92%以下